

いまの大阪湾

平野部の少ない大阪湾沿いでは、江戸時代から大きな川の河口や浅い海岸を埋め立てて新しい土地をつくってきました。昭和に入ってから、日本の国が発展するとともに埋め立てはさらに進み、そこにいろいろな工場が建てられました。工場や港が大きくなって、日本の国はますます発展してきましたが、いろいろ困ったことも起こってきました。

大阪湾の埋め立て (写真:平成16年大阪港)

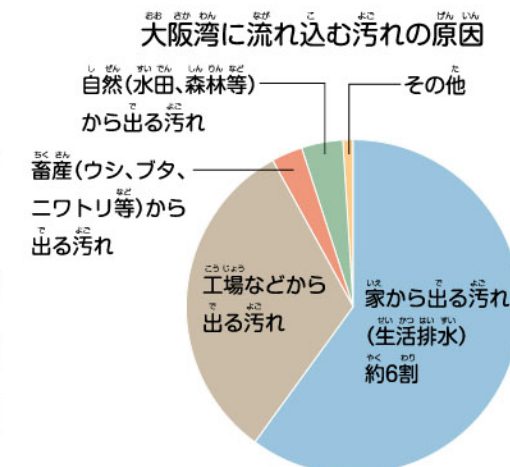


● 近寄りにくくなった海

昔は砂浜だったところが埋め立てられ、高潮を防ぐために防潮堤を作ったり、波消しブロックが並べられたりして、人々は海に近寄りにくくなりました。

● 海の水が汚れた

以前は、海の埋め立てや工場からの排水などが海の水の汚れの原因になっていました。また、現在では下水道が普及していない地域もあるため、大阪湾では、生活排水が汚れの主要な原因の約6割となっています。



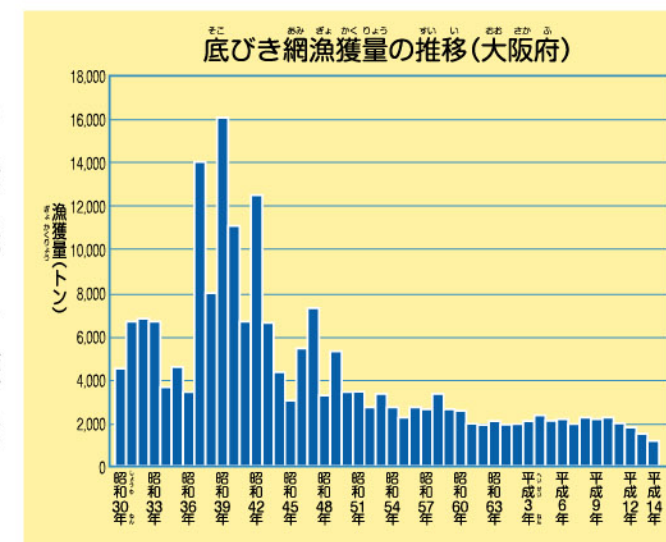
注:滋賀県を除く(平成11年) 出典:大阪湾再生推進会議調べ

台所で流した牛乳などを、魚(コイ・フナ)がすめるきれいな水に戻すためにはお風呂の水何杯分(お風呂の水1杯を300リットルとして計算)が必要でしょうか?

- (お風呂の水)
- 牛乳(コップ1杯).....9杯
 - 使用済みの天から油(なべ1杯).....330杯
 - ラーメンの汁(おわん1杯).....3.5杯

● 魚がすみにくい

藻の生える場が少なくなったり、海の水が汚れたり、赤潮や酸素の少ない水の層が発生し、魚のすめる環境が悪くなったため、昔はいっぱい獲れていた魚がだんだん獲れなくなってきました。



出典:大阪府水産課調べ

※底びき網...ふくろ状の網を船で海底をひきながら魚を獲る漁法。主にカレイやエビなど海の底にすんでいる魚類を獲る方法です。